

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別，年齢，職業，家族構成，居住年数，居住地域，居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い，好きな理由，嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の視聴状況，「広報うつのみや」の入手方法，「広報うつのみや」を入手していない理由，「広報うつのみや」で読んでいる主な記事，「広報うつのみや」に関する感想，取り上げてほしい話題・情報，市のホームページを見るための主な手段，ホームページで知りたい情報はどこから探すか，ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいか，ホームページに関する感想，充実してほしい機能や情報，市政情報をどんな手段で知りたいか
良好な生活環境の確保に係る市民満足度	環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているか
生物多様性	「生物多様性」の認知度，外来種が及ぼす影響の認知度
宇都宮市の景観	宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか，「宇都宮らしい景観」とは何か，良好な都市景観の形成に必要なこと，ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象，ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点
宇都宮産の農産物	宇都宮産の農産物の購入意欲，宇都宮の農業を大切にしたいと思うか，環境に配慮して生産された農産物の購入意欲
カーボンニュートラル(脱炭素)	カーボンニュートラルの認知度，カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか，カーボンニュートラルにつながる行動について，ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度
水災害(洪水など)への備え	ハザードマップの存在の認知度，住んでいる建物(住宅)は，洪水浸水想定区域内，または洪水浸水想定区域外か，水災害への備えに取り組んでいるか
まちづくり活動への意識	参加中または興味があるまちづくり活動，まちづくり活動に参加していない理由
スポーツに関すること	スポーツに関する指導を行ってみたいか，スポーツ競技会場でスポーツ観戦をしたことがあるか，アーバンスポーツに関心があるか
治水・雨水対策	総合治水・雨水対策の認知度，総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたか，総合治水・雨水対策の効果的な周知・啓発手法，今後取り組んでいきたいと思っているもの

中心市街地の活性化	中心市街地に出かける頻度, 中心市街地へ出かける目的, 中心市街地により訪れたいようになるための機能や施設
プラスチック製品の資源化	プランチックごみを減らすための取組, 「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の排出方法の違いの認知度, プラスチック製品も資源物として収集する場合, 分別に協力しやすい手法
宇都宮市のみどり	みどりの量についての感じ方, 「みどり」に関することで取り組みたいこと, 「みどり」を増やすために必要な取組
住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況	「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況, 設置している住宅用火災警報器の経過年数, 住宅用火災警報器などの「点検」の有無
「大谷石文化」の日本遺産認定	「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度, 「大谷石文化」を誇りに感じるか
雨水貯留・浸透施設の補助金制度	「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度, 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度, 貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度, 貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うか, 設置希望・既設置の理由, 設置したくない理由
焼却ごみ削減の取組	ごみ削減のため実施した取組, 焼却ごみ削減の取組のために参考にしたもの
シェアリングモビリティの認知度等	市役所や宇都宮駅周辺でシェアリングサービスを実施していることの認知度, シェアリングサービスを利用してみたいか, シェアリングサービスを利用してみたい理由, シェアリングサービスを利用したくない理由, 普段の公共交通（電車やバス）の利用頻度
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか, 結婚するつもりがあるか, 結婚している場合, 全部で何人のお子さんを持ちたいか, 結婚を予定している場合, 子どもは何人ほしいか
SDGs (エス・ディー・ジーズ)	SDGsについての認知度, SDGsにつながる行動の中で, 日頃から取り組んでいるもの, SDGsのゴールの中で, 積極的に取り組みたい分野
生涯学習	現在, 生涯学習として学習, 文化・スポーツ活動等をしているか
健康づくり	「(保存版(冊子))健康づくりのしおり」をどのように利用しているか, がん検診を受診する間隔, 直近のがん検診の受診先
議会の広報・広聴に対する市民の認知度	市議会の情報をどのような方法で得ているか, 市議会について知りたいこと, 「サクサク! うつのみや市議会」や「なるほど! うつのみや市議会」の認知度・視聴経験, 市議会に取り組んでほしいこと
選挙の投票率向上に向けた取組	最近の選挙について, 投票に行っているか, 投票に行ったことがない方の4月23日宇都宮市議会議員選挙の認知度, 宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由, 投票環境の充実を図るために必要な取組
「もったいない運動」	「もったいない運動」を知った経緯, 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間, 社会的な活動の実施状況, 配偶者からの暴力を受けた経験, LGBTQ(エルジービーティーキュー)の認知度
防犯・交通安全に関する意識・状況	安心して暮らすことができているか, 自転車乗車中のヘルメットの所持および着用状況, 自転車保険の加入状況

3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 18 歳以上の日本国籍を有する市民 5,400 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和 5 年 11 月 6 日～12 月 11 日

4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
5,400	2,431	45.0%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10歳代	男性	76	1	1.3%	10	13.2%	11	14.5%
	女性	62	0	0.0%	6	9.7%	6	9.7%
	その他	—	0	—	1	—	1	—
	計	138	1	0.7%	17	12.3%	18	13.0%
20歳代	男性	278	13	4.7%	35	12.6%	48	17.3%
	女性	228	17	7.5%	42	18.4%	59	25.9%
	その他	—	1	—	1	—	2	—
	計	506	31	6.1%	78	15.4%	109	21.5%
30歳代	男性	351	24	6.8%	66	18.8%	90	25.6%
	女性	324	47	14.5%	84	25.9%	131	40.4%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	計	675	71	10.5%	150	22.2%	221	32.7%
40歳代	男性	499	36	7.2%	127	25.5%	163	32.7%
	女性	460	87	18.9%	130	28.3%	217	47.2%
	その他	—	0	—	2	—	2	—
	計	959	123	12.8%	259	27.0%	382	39.8%
50歳代	男性	468	77	16.5%	104	22.2%	181	38.7%
	女性	373	103	27.6%	93	24.9%	196	52.5%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	計	841	180	21.4%	197	23.4%	377	44.8%
60歳代	男性	374	120	32.1%	80	21.4%	200	53.5%
	女性	412	199	48.3%	61	14.8%	260	63.1%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	計	786	319	40.6%	141	17.9%	460	58.5%
70歳以上	男性	546	271	49.6%	42	7.7%	313	57.3%
	女性	949	475	50.1%	31	3.3%	506	53.3%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	不明	—	6	—	0	—	6	—
計	1,495	752	50.3%	73	4.9%	825	55.2%	
年代不明	男性	—	0	—	0	—	0	—
	女性	—	1	—	0	—	1	—
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	不明	—	38	—	0	—	38	—
計	—	39	—	0	—	39	—	
全体	男性	2,592	542	20.9%	464	17.9%	1,006	38.8%
	女性	2,808	929	33.1%	447	15.9%	1,376	49.0%
	その他	—	1	—	4	—	5	—
	不明	—	44	—	0	—	44	—
合計		5,400	1,516	28.1%	915	16.9%	2,431	45.0%

5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,431	±1.19%	±1.59%	±1.82%	±1.94%	±1.98%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.45%
1,200	±1.69%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.82%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

<標本誤差の算出方法>

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の満18歳以上の人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

<表の見方>

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,431で宇都宮市が「好き」との答えが47.7%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも47.7%±1.98%以内(45.72%~49.68%)である」とみることができる。

6. 調査報告書の見方

- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- n値が少ない属性は記述に含まれない場合がある。
- 世論調査のクロス集計結果については、年齢や家族構成等の属性によって、回答者数にばらつきがあることから、参考として記載する。